

新型コロナウイルス感染症の影響で、在宅勤務やオンライン会議など、これまでの働き方の見直しに迫られるようになりました。新型コロナ対応では、事務所での対策のほか、地域と連携した取り組みも進めました。



岡保きらめきの利用者による手作りマスクを地域の子ども園に贈呈

■ インターネットを活用したオンライン会議の促進

3密を避けるために、集合体の会議を見直し、会場を分割してのオンライン会議を実施しました。理事会や地域理事協議会といった機関会議のほか、業革会議、店長会議など、事務局会議もオンライン会議を進めました。移動の時間削減にもつながり、一定の効果を示しました。

■ テレワーク（在宅勤務）の実施

事務所内での感染リスクを減らすために、出勤する職員の数減らし、在宅での勤務を推進しました。在宅での勤務を進めるために、リモートワークが可能なパソコンを設定し、自宅で職場と同じ環境で業務ができるようになりました。また、在宅での勤怠管理の仕組みを導入し、職員が安心して働ける環境をつくりました。

■ 新型コロナウイルス感染症への対応

未曾有の感染症災害となった新型コロナウイルスへの対応として、マスクの着用、アルコール消毒の実施、手袋の着用、宅配では配送時の「置き配（対面せずご自宅の指定場所に荷物を配置）」の対応や、店舗では、レジ待ちでの足跡設置による社会的距離確保、飛沫感染防止として全レジとサービスコーナーに対面遮断ビニールの設置、福祉ではグループホームでのテレビ電話面会など、組合員と職員の安全確保を目的に、様々な取り組みを行いました。また、クライシスマネジメントにもとづき、一部事業の停止や縮小、組合員活動の活動中止などの判断を行いました。



子どもたちへ「休校支援弁当」配達

学校休校で自宅にいる子どもたちに栄養バランスの取れた食事を提供することと、親御さんの昼食の負担を減らすために、「休校支援弁当」の特別配達を行いました。



福井県に、非接触型体温計1000本を寄付

福井県がマスクや体温計、消毒用エタノールなどの医療物資の寄付を求めていることから、非接触型体温計を贈呈しました。贈呈した体温計は、学校などで使われています。



コロナ対応激励金

新型コロナウイルス感染症の中、現場職員が最前線で、県民の様々な要望や声に出来る限りの対応を行い、県民の食とくらしを守ってきました。特に現場で日常多くの県民の方と接し、対応を行っている職員の奮闘に応えるために、「コロナ対応激励金」を職員に支給しました。